



二松学舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成25年3月31日発行
(第80号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学教学課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



卒業を祝す

父母会会長 岩田秀生



卒業生の皆様、
ご卒業おめでとうございます。
です。

今年の卒業式は港区芝にある新たな会場「メルパルクホール」において落ち着いた雰囲気なか厳かに挙行され、対照的に卒業パーティーは恒例の「帝国ホテル」で華やかに開催されました。卒業生の皆様には「一生の思い出」となる素晴らしい行事になったのではないのでしょうか。

さて、皆様はこれから就職（再挑戦を含む）・進学・留学等、新たな人生の一步を踏み出すことになりました。新しい環境に慣れるまでしばらくは大変でしょうが、学生生活を通じて培われた「知識、知恵、体力、

根性、演技力」等をフルに活用されて、「日本社会の建て直し」や「国際化推進」に向け益々活躍されることと、卒業生お一人お一人が「幸せ」と感じる人生を歩めますことを心から祈念申し上げます。但し、「幸せ」は心身ともに健康な状態を維持することによりはじめて得られるものですので、連日の飲酒や限界を越える頑張りで体調を崩すことがない様に、「バランス感覚」も身につけていただきたいと思います。

卒業生保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。また、父母会に対するこれまでの多大なご支援・ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

卒業生保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業を以って父母会をご卒業されることとなりますが、本学には「二松学舎大学後援会」がございます。後援会にご入会いただくことにより引き続き本学との縁が継続されますので、是非ご検討の程宜しくお願い致します。また、父母会に対しても、今後ともご支援・ご協力を賜れば幸いです。

末筆になりますが、本学教職員の皆様には、子供達への公私に渡る親身なご指導をはじめ諸般大変お世話になっておりますことを、あらためて深く感謝申し上げます。

自立した生活を！

理事長 水戸英則



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが生活する世の中は、かつてない大きな構造変化が起きており、将来が予測し難い状況が続いており、ますます、こういう世の中では、皆さん一人一人が自立した生活を送っていく

ことが肝要です。そのためには、まず健康に留意することです。皆さんが、皆さん自身の長い社会生活を歩き通すには、先ず健康でなければなりません。これは自己管理の問題です。忙しい仕事の合間を縫って、運動、読書、音楽など自分にあった気分転換を身に付けて、仕事上の心理的な疲労を蓄積させないことが肝要です。

次に、社会生活は相手の立場を考

本当の学問を為すのはこれからである

学長 渡辺和則



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

前に私が学長に就任してはじめてお迎えした学生です。入学式で、私は皆さんに「二松学舎大学は素晴らしい大学なので、皆さんはきっと二松

学舎大学を好きになってくれると思う」と述べましたが、二松学舎大学の学生生活は如何でしたか。皆さんは欲張ってあれもこれもと手を出し、やってみたら、どれひとつものにできなかったという経験をしたかもしれません。そもそも、学生時代における体験とはそういうものなのであって、目標が成就されなかったことを悔いる必要はありません

えた上で行動することが大事です。自分のできる事、親切とか思いやりを、自分のペースで他人に示せばよいのです。相手の立場を考えると、うことは、相手の言いなりになることではありません。相手の立場を考えた上で、自分なりの立場なり主張をはつきりさせることが肝要です。

本を読むことです。読書は心のひだを深くし、人間の幅を広めます。以上の三点は、当り前のことです。が、この世の中はこうした当り前のことを実行していくことが大事なのです。そして、これらを念頭に置いて、仕事をし、研究を行う、人に頼らず、自らの能力を活かして収入を得て、自立した個人として家計を営む、その上で、そうした仕事や社会的な活動などを通じて、自分自身、もう少し大きな周り、惹いては日本や世界を、明るく希望の持てるより良い社会にすることに貢献していく人材として、活躍することを念願する次第です。

しかし、人生の道はそんなに規則正しいものではなく、曲り角が何度かあります。しかも、その曲り角での岐路の選択が人生の転機になるかもしれません。転機をチャンスとしてしっかりとつかまえるためには、いまから実力をつけておかねばなりません。皆さんは大学を卒業された

最後になりましたが、「士八別レテ三日ナラバ、即ち更メテ刮目シテ相ヒ待タン」という言葉があります。ここで皆さんとお別れすることになります。一つの日か機会を得て再会するときには、今以上に立派な人物となって活躍されていることを心から期待しています。くれぐれも健康に留意し、活躍されんことを祈念しております。

文学部を卒業のみなさんへ

文学部長 江藤茂博



文学部の皆さん、ご卒業のめどうぞ。

長かったと思うひとも、あっという間だったと思うひとも、この二松学舎大学で同じ時間を過ごしたことは確かなことです。卒業後は、君たちは一体どんな場所でのような時間を

を過ごすのでしょうか。これまでのように学年で区切られているわけではないので、自分でめりはりを付けるしかありません。「人生は何事をも為さぬには余りに長い、何事かを為すには余りに短い」(中島敦『山月記』)という思いをしないためには、しかし、これからの人生、「何事かを為す」とすると、雑事に煩わされ、挫折が繰り返されるかもしれません。そうであっても、君たちが信

ご卒業おめでとうございます

国際政治経済学部 菅原淳子



卒業生の皆さん、おめでとうございませう。

出を胸に、一松学舎大学を巣立ち、新たな人生への第一歩を踏み出そうとしていらっしゃる皆さん、皆さんの前にはさまざまな可能性を秘めた道

があります。どうぞ勇気をもってその道を進んで下さい。在学中には、学びやさまざまな活動を通して視野を広げ、たくさんの経験を積まれたことでしょう。それらの一つ一つが、これからの人生の中で貴重な経験として意味を持っていくことと確信しています。皆さんはこれから、自らの人生を自身の力で切り開いていくこととなります。人生

じる道を歩いて欲しいと思います。ひとは自分の生きる道を、自由に選択できるものではありません。私も、教師だけではありません。大学の頃までは固く心に誓っていました。小学生の頃から、いばった大人特に一部の教師が嫌いで、単純にその職というものがおぞましいものしか思えなかったのです。今でもいばった人間は大嫌いです。今でもいばった人間は大嫌いです。今でもいばった人間は大嫌いです。今でもいばった人間は大嫌いです。

通りの就職ができたわけではないかもしれませんが。しかしどの様な場にあっても、社会の一員として何らかの形で社会に貢献できると考えていたのだと思います。そして、皆さん、どうぞ人生を長いスパンで考えてください。社会に出てから、再び学びなおすことも可能です。さらにできれば、「生涯を通して学ぶ」という姿勢を持っていただきたいと思います。

さて、近年の経済事情の悪化の中で、今年も厳しい就職難の一年でした。皆さんにとっても就職活動は苦しい出かもしれません。必ずしも思

さまざまな可能性を持つていらっしゃる皆さんの前途が、希望にあふれていることを祈って、贈る言葉といたします。

文学部

四年生のゼミナールを担当された先生方から
饒の言葉を頂きました

Way to go!
白井雅彦

信じる道を
行くはじまり
濱田奈奈

知の先鋒
高澤達

如く
一衛

不撓不屈
大地雄

人生は、不幸に対して無関心でいるように
なり、つれ不幸を笑うことができるようにと
望んでいる内奥の密やかな何かのことで
私には思えるのです。(若林淑子)

笑う門には
福来たり
小山聡子

梅花香自苦寒来
林謙太郎

努力前進
時の休憩
松本直村

人は誰かがいつか大人になるとは
限らないのだ。(吉原蓮蓬)

土佐香里

空の月のかりあふ
ひまわりの道
山崎正伸

心恒求学
井川智世

私かあとの
社破り

憧れの先鋒
梅田浩

人生を楽しんで！
松本健太郎

「もうそれは新しい物語」
別の長い物語であければ
「さうさう」(大西入智喜喜劇)

「人生は、不幸に対して無関心でいるように
なり、つれ不幸を笑うことができるようにと
望んでいる内奥の密やかな何かのことで
私には思えるのです。」(若林淑子)

人生は、不幸に対して無関心でいるように
なり、つれ不幸を笑うことができるようにと
望んでいる内奥の密やかな何かのことで
私には思えるのです。(若林淑子)

人生は、不幸に対して無関心でいるように
なり、つれ不幸を笑うことができるようにと
望んでいる内奥の密やかな何かのことで
私には思えるのです。(若林淑子)

文学部

四年生のゼミナールを担当された先生方から
饒の言葉を頂きました

Way to go!
白井雅彦

信じる道を
行くはじまり
濱田奈奈

知の先鋒
高澤達

如く
一衛

不撓不屈
大地雄

人生は、不幸に対して無関心でいるように
なり、つれ不幸を笑うことができるようにと
望んでいる内奥の密やかな何かのことで
私には思えるのです。(若林淑子)

笑う門には
福来たり
小山聡子

梅花香自苦寒来
林謙太郎

努力前進
時の休憩
松本直村

人は誰かがいつか大人になるとは
限らないのだ。(吉原蓮蓬)

土佐香里

空の月のかりあふ
ひまわりの道
山崎正伸

心恒求学
井川智世

私かあとの
社破り

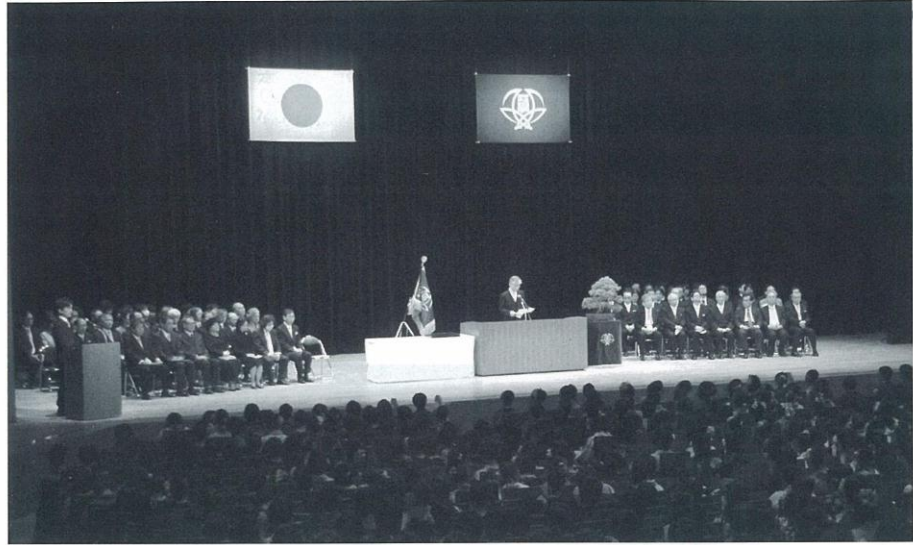
憧れの先鋒
梅田浩

人生を楽しんで！
松本健太郎

「もうそれは新しい物語」
別の長い物語であければ
「さうさう」(大西入智喜喜劇)

人生は、不幸に対して無関心でいるように
なり、つれ不幸を笑うことができるようにと
望んでいる内奥の密やかな何かのことで
私には思えるのです。(若林淑子)

人生は、不幸に対して無関心でいるように
なり、つれ不幸を笑うことができるようにと
望んでいる内奥の密やかな何かのことで
私には思えるのです。(若林淑子)



平成24年度 卒業式

平成二十五年三月十九日(火)、メルパルクホールにおいて、平成二十四年度二松学舎大学学位記授与式(卒業式)が挙行されました。着飾った卒業生たちが会場前に集合し、友達同士や親子で写真を撮る風景があちらこちらで見られました。

午前十時、開式宣言に始まり、国歌斉唱、高野和基学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生四三二名に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生二二七名に学士(国際政治経済)の学位記・卒業証書が授与されました。

国文学科・中国文学科・国際政治経済学科それぞれの成績最優秀者には、中洲賞として賞状と賞品が授与され、その後、教育職員免許状が伝達されました。

続いて渡辺和則学長の告示、水戸英則理事長・神津賢一郎松苓会長の祝辞、祝電披露、金原和真さんの送辞、卒業生代表の星野千尋さんの答辞、校歌斉唱と進行し、厳粛のうちに卒業式は終了しました。

卒業生の皆さん、ぜひ自分の夢を大切に
にして粘り強く仕事に取り組み、社会人
として活躍されることを願っております。



国際政治経済学部

四年生のゼミナールを担当された先生方から饒の言葉を頂きました

六分の快気四分の熱
高野和基

夢叶う日金を一丁下して
伊山が下す
政義

Never Give Up!
何夜も挑戦しろ
星野千

一人は一人
健康第一
がけ金子茂

足元を見て
行く花を見て
水本義彦

御卒業おめでとう
ハッピーライフ
土屋茂

社会あることに
泣き
泣き

昨日まで人生の得意な
今日からは人生の本懐を知り
涙を知り

卒業は人生の一通り
河原田有

六分の快気四分の熱
高野和基

六分の快気四分の熱
高野和基



平成二十五年三月十九日(火)、午後一時三〇分より帝国ホテル「富士の間」において、平成二十四年度卒業パーティーが開催されました。パーティー会場ではゼミの先生を囲んでの写真撮影や友との話らしい楽しい時間が瞬く間に過ぎ、終了後は立ち去りがたく別れを惜しんでいる姿が見られました。



祝 **卒** **業**

平成24年度 卒業パーティー in 帝国ホテル 富士の間



我が大学生生活に悔いなし



星野 千尋

文学部国文学科

七年前の私の夢は「国語の教員になること」でした。そのため私は恩師の母校の附属校である二松学舎大学附属柏高等学校に進学することを決めました。夢を叶えるべくして過ごした高校生活は、木村校長先生をはじめ諸先生方のおかげで、大変有意義なものとなりました。

そして四年前の私の目標も「国語の教員になること」でした。三年生になった私は、教育学部に進学するか、内部進学で二松学舎大学に進学するかで悩んでいました。母から自分の決めたことに後悔だけはするな」と言われていたことを、今でも覚えています。当時、私のために色々な可能性を提案してくださった担任の先生には感謝しています。

今、大学卒業にあたって、二松学舎大学に進学したこと的一切悔いはありません。むしろ「国漢の二松学舎大学」の卒業生の一人になれることを誇りに思っています。私の大学生生活は、素敵な出会いの賜物でした。

一年次の基礎ゼミで隣に座っていた彼女。中国文学科の論語を扱う授業で知り合った彼女。彼女は私の支えでした。ともに教員になることを目指す仲間であると同時に、私にとってはライバルでもありました。彼女は優秀で、負けず嫌いな私は大いに影響を受けました。教員を目指す私は、教職支援センターが実施してくださっている教員採用試験合格講座を一年次から受講

していました。そこで出会ったのが白井先生と山辺先生でした。なんとも影響力のある先生方だと思いました。知識とテクニクの宝庫である先生方の講義は、私を奮い立たせてくれました。きつとこの講座を受けなかつたら、今の私はなかつたのではないかと思えます。

基礎ゼミの先生であった松葉先生と教職支援センターの大柳先生には四年間を通して、多くの相談にのっていただき、感謝しています。先生方からすれば些細な悩みだったのかもかもしれませんが、当時の私にとっては大きな悩みでした。それらの話を親身になって聞き、また助言してくださっておかげで、私自身の未来の道筋を定めることができたのだと思います。

三年次・四年次のゼミナールでは五月女先生のご指導のもと、専門分野の研究に励むことができました。三年次は物語に出てくる和歌を集めた『風葉和歌集』から一首を選んで物語との相違点を中心に発表しました。四年次には、『平忠盛集』の注釈をを活かして『平忠盛集』の注釈を中心に『平家物語』との比較を卒業論文のテーマとして研究に励みました。翻刻で悩んだ時や和歌の解釈で悩んだ時には五月女先生にご指導いただいて、一つの形にまとめること

ができました。

最後に、恥ずかしくてなかなか口に出して言えないけれども、勝手に進路を決めた私を見守り、快く大学に通わせてくれた両親には感謝しています。本当にありがとう。

私は四月から千葉県の高等学校の教員として働きます。教員である以上、私はずっと研究をしていくことになりそうです。大学在学中に学んだことや、社会に出てから研究したことを子どもたちに伝え、温故知新の心を育むことができればと思っています。

教育実習の最終日、父から「千尋にとって教員になるっていうのは、もう夢じゃないな」と言われました。中学三年生の頃からの夢が、二松学舎大学に進学したことで目標となり、ついに実現し、そして今度は、私が子どもたちの夢を叶える側となります。

今の私の目標は、白井先生の言葉をお借りして、「一流を目指している」と言っていて笑われない一流の教員になること」です。



当面の目標は脱井蛙



小泉 かおる

文学部中国文学科

四年間で、私は一体何を得られたでしょうか。二松学舎大学での生活は、楽しいことも悲しいこともそれなりにあり、全てが良い思い出とは言えませんが、自分のこれからの人生の為に心からそう思います。

二松学舎大学に入ったきっかけは、中国思想を学びたかったことと中国語学研修に行きたかったからです。中学生の頃『墨攻』を読み、中国思想・中国文化に興味を持った私は、高校に入ってもそれ以外に興味を持てるものが生まれることなく、漢文が勉強できる大学に入りたいと思いました。志望校を選ぶ際にこだわったのは、留学ではなく少しお気軽に中国に滞在できるシステムがある学校でした。

中国語を沢山勉強しようとは、受験生のときはあまり思っていないな

かったのですが、高三夏のオープン

キャンパスのキャンパスツアーで中国語研究会の男子学生の方からお話を伺うことができて、意識がガラッと変わりました。ただ中国研修に行くだけでは勿体ない、と。

大学に入るまで私は中国語に四声があることも知らないで素人でしたから、研修に行くまで他の人に負けないぐらい勉強してやろうと思いましたが、その最初の決意が私の四年間を充実したものにしたと思います。

部活に入つて、中国語を勉強し続け、人より多く勉強している分、大学の授業では先生の覚えもめでたかったです。どの先生も親切丁寧に教えて下さいましたが、とくに印象に残っているのは南雲先生の中国語の授業でした。最初はスパルタな授業だとも思いましたが、置いて行かれないうちに頑張つて勉強しまし

た。今思うと私の中国語の授業の基礎はここで身につけたと思います。

一年間必死に勉強して、二年時に中国語学研修へ無事行くことができました。北京大学で林先生に指導して頂いたこと、そして中国の偉大な文化を実際に見られたことは、私の大学生活の中で最も輝かしい思い出かもしれません。

中国思想・文学の授業は、今思うともっと一年の頃から自分で発展的に勉強しておけば良かったと思うばかりです。中国思想・文学は、自分の中に知識が少なく、授業でも概論の授業から入るので、なかなか研究できなかつたと思います。ただ知るだけでなく、読むだけでなく、その文学がどのようなメッセージを持っているのかと考えていきかけたのです。

目標としていた中国語検定2級を三年次に取得できましたが、大学という狭い世界の中だけで頑張つていても、私より中国語が出来る人なんて沢山いますし、漢文が読める人だつて沢山います。中国語、そもそも言語というものは奥が深く、終わりが見えないことに絶望することもありました。中国文学の知識が自分にはあまりに無さ過ぎて、四年間、私は何を学んできたのだろうと人生が嫌になる時もあります。でも私が

できることは勉強し続けることです。

大学の中では少々勉強ができる方だったので、有頂天になっていた時もありましたが、そんなときに一年生の頃部活の顧問だった石村先生が仰つたことを思い出します。「二松学舎ですべて満足してはいけません。井の中の蛙になつてはいけません。でも自分が井の中の蛙である、と知っているだけで人生は変わらぬと思います。向上心が出てくると思いますが、春から私は教員の職に就きますが、ベテランの先生から若い先生、関わり合う生徒たちなど全ての人から様々なことを学び取つていきたいと思っています。

部活に入つたことで、私は中国語の基礎を身につけることができただけでなく、上を目指す意識も身につけることができたと思います。なにより共に目標に向かう仲間がいることは良いものです。これから共に過ごした仲間たちとは歩む道が違つてしまふけれども、ずっと互いに励ましあい、切磋琢磨しあえる友を得ることができて本当に良かったです。



4年間を振り返って



国際政治経済学部 木内 菜美

長いように感じていた大学生活も終わってみれば一瞬だったように感じられます。こうして四年間を振り返ってみると、充実した日々だったと感慨に浸ると同時に、かけがえない四年間であったからこそ、もっと時間を大切に使うべきでした。私は国際政治や国際協力に関心があつてこの大学に進学しましたが、政治学だけでなく経済学や法学もすべて視野が広がったことは本当に良いことでした。このような二松学舎大学に通ったからこそ経済学への関心が強まり、今があるのだと思いません。

感じられるようになりました。また、政治学や経済学でも問題についてより深く考えられるようになりました。二年次の講義で特に印象に残っているのはミクロ経済学です。秋 semester で学んだゲーム理論の戦略的思考と行動決定の構造は特に興味深く、石油産業の規制緩和といった問題から夫婦間でどちらが家事をやるのかといった身近な出来事まで、ゲーム理論を用いて複雑な状況の理論を深められるというのは感動に近い衝撃でした。三・四年次にはより専門的な講義が増え、複雑な国際問題について学びました。政治学では国際社会について自分なりの問題意識を持ち、実際に起こっている出来事について専門的な知識を用いて考える機会が増えました。何故このような現象が起

きたのかということについて論理的に考えることによつて視野が広がり、大学に入学した当初に比べより多くのことに関心を持つことが出来ました。法学においても実際のケースや具体例を学ぶことによつて、国際社会を理解する上で重要な捉え方を学びました。経済学では数学的なアプローチを用いるようになりましたが、これまで数学を避けて通ってきた私も数学の面白さを知りました。経済の動きを確かめ、厳密な分析を行うことによつて、改めて学問は素晴らしいと考えられるようになりました。この四年間、丁寧かつ熱心にご指導下さった先生方の中でも、特に三年次から所属していたゼミナールの岩田先生には本当にお世話になりました。感心のあるテーマについて学習しそれについて発表する機会が多かったことはとても良い経験になりました。発表することによつて自分の理解の浅さに気付くことが出来ましたし、ゼミ生の発表を聞いたり質疑応答を行うことによつて自分では気付かなかった様々なテーマについて考えることが出来ました。ゼミナールの時間以外にも分からない点についてご指導頂き、岩田先生には感謝してもしきれません。学問に動しんだ大学生活でした

が、かけがえない友人達と出会えてとても楽しい四年間でした。分からないことを数え合ったり、色々なことを話したりしたことによつて、人との繋がり的重要性もまた知ることが出来ました。楽しいことや辛いこと、多くのことを共有していつも支えてくれた友人達のお陰でここまで来ることが出来ました。未知のことについて学び、経験することによつて共に成長してきた友人達と過ごした大学生活はとても濃い時間だったように思います。二松学舎大学で得た多くの出会いは宝物です。未熟な私を支えて下さった先生方や友人達、そして家族に大きな感謝を捧げます。二松学舎大学で過ごした四年間において、知識や出会い、成長など沢山の宝物を得られたことに喜びを感じています。これからも二松学舎大学で得たものを大切に、様々なことに挑戦を続けていきたいと思いません。



文学部 教授 増田裕美子

私の学生時代は、受験戦争が激しく、受験勉強がとても大変だった。で、その反動から、大学に入学すると勉強よりもサークル活動や友人との旅行などを楽しむことに熱心になった。

当時大学には女子バスケットボール部がなく、私はたまたま高校でバスケット部に所属していたので、友人た



国際政治経済学部 教授 押野 洋

上京してすぐ神保町の古本街へ行った。買ったのは七冊本からなるヘルマン・ヘッセ選集。初めて手にしたドイツ語の本で確か一万円だったと思う。ヘッセを原語で読みたいという思いから東京外国語大学のドイツ語科に入学した。学生も教員も個人主義者の集まりで、語学さえしつかり学べば他は何とかなるという「語

ちと女子バスケット部を創設した。それからもう一つ私が所属していたのが、茶道同好会というサークルで、先生をお招きして裏千家の茶道を習っていた。ここで茶道という日本文化の真髄に触れたことはとても大きかったと思う。一つ一つの所作も美しく、日本人の美意識の高さを実感することにもなった。しかし何と言つても大学時代の一番の思い出は、三年生の時にピアノのコンサートを開いたことである。私は幼いころからピアノを学

習っていてピアノリストになろうと思ったこともあったが、英語も好きで、将来英語を生かせる職業に就こうと思つてピアノリストになることはあきらめていた。それでも相変わらずピアノを続けていたので、渋谷の大きなティールームでコンサートを開いたのである。三年生の時にはすでに教養課程を終えて教養学科のフランス科に在籍していて、フランス科の友人が宣伝のパンフレットを作ってくれたり、多くの友人や先生方が会場へ聴きにきてくれたり

した。本当に懐かしく幸せな思い出である。さて肝心の勉強はというと、大学の授業のほかにも市ヶ谷の日仏学院に通つてフランス語を一生懸命勉強し、卒業論文もフランス語で書いた。現在、私は夏目漱石を中心とした比較文学的研究を行なっていて、とくにフランス語を用いて書いたりすることは無いのだが、明晰さを旨とするフランス語を学んだことは、論理的な思考を養い、論理的に明晰な文章を書くことに役立っていると強く感じている。

私の学生時代

学至上主義」の大学は僕にはすくぶる居心地の良いものであった。当時の先生方は授業方法にはおおよそ関心がなかった。出席もとらなかつたし、強要もされなかつた。先生によつては半分ぐらいは休講ということもあった。今となつては隔世の感を禁じえないのだが、当時はそれが当たり前であった。特にドイツ語科の教員は自由放任主義者ばかりで、教えるべきことは教えるが強制はしないというスタンス。その背景には「学問は強制されてすべきものではない」という信念があつ

たのだろう。大学院時代も含めて何人かの先生方にはお世話になった。指導教官ではなかったが当時三十台半ばの平野先生にはドイツ語テキストの読み方を徹底的に教えていただいた。学部時代の先生の授業は教科書を機械的にこなす式の面白くない授業であったが、先生の研究室で行なわれた大学院の授業は全く違つていた。文学のみならず音楽にも絵画にも造詣が深い先生の、時にマンツーマンの授業は知る遊戯空間とても形容できる。今思えば贅沢な時間であつた。その他、

食事の際や駅までの道すがら、電話等で先生から頂いた言葉は今でも僕の中に残っている。大学の先生とは教室以外でも接してみても、二松学舎の学生に事あるごとに言っているのだが、それは自分の体験に基づいている。外語大はその後移転し、跡地は「西ヶ原みんなの公園」という味気ない名前の公園と老人ホーム、賃貸マンションになつている。二年間、乃至四年間柏キャンパスで学生生活を送つた二松学舎の一部の卒業生の一抔の寂しさを共有しているつもりである。

- ### 学生顕彰報告
- 団体**
- 北海道部**
- 第四十六回全日本北海道選手権大会
 - 女子団体実戦 優勝
 - 女子展開 3位
 - 男子展開 6位
- 個人(書道)**
- 倉下 杜之さん 入選
 - 第四十回日本の書展
 - 小松原 倫さん 入選
 - 第六十四回毎日書道展
 - 渡邊 優さん 入選
 - 第六十四回毎日書道展
 - 加藤 綾香さん 入選
 - 第二十九回読売書法展
 - 夏井 望さん 入選
 - 第十七回全日本高校・大学生書道展
 - 早川 桂央さん 優秀賞
 - 第十七回全日本高校・大学生書道展
- 個人(短歌)**
- 石渡 洋昭さん 優秀賞
 - 第六回全日本学生・ジュニア短歌大会
 - 真田 美月さん 秀作賞
 - 第六回全日本学生・ジュニア短歌大会

- 喜多 智一さん 秀作賞
 - 第六回全日本学生・ジュニア短歌大会
 - 石井 初実さん 秀作賞
 - 第六回全日本学生・ジュニア短歌大会
 - 山口 敦子さん 秀作賞
 - 第六回全日本学生・ジュニア短歌大会
 - 渋谷 彩奈さん 秀作賞
 - 第五十六回千葉県短歌大会
 - 伊藤 駿さん 天賞
 - 第五十六回千葉県短歌大会
 - 吉村 俊亮さん 地賞
 - 第五十六回千葉県短歌大会
- 課外活動団体助成報告**
- 狂言研究会 「第三十三回自演会」 学外発表会ホスター印刷費助成
 - 茶道部 「卒業記念茶会」 学外発表会会場借用費助成
 - 合唱団コールエコーズ 「第四十六回定期演奏会」 学外発表会会場借用費助成

学生相談室 だより 80

カウンセラー 原 信夫

こんな自分を変えたい、自分の嫌なところを変えたい、こんなふうに変りたい、など「変わりたい」という相談を受けることがよくあります。相談に来る学生たちは何かしら困ったことがあって、それを解決したいと望んでいるわけです。相談に来る学生はみな「変わりたい」思いを抱えている人ともいえます。

大学生のころは、自分のダメなところや劣っている点、嫌なところが気になるややすい時期です。それだけに「変わりたい」気持ちも強くなります。日頃、言葉や態度では、自分のことなど気にもしていないように振舞っていても、実は気になっていきます。気になっているのだけれど、それを認められないのが嫌で、人にも言えないといった感じです。自分について、これほどまで考える時期はないのではないのでしょうか。それだけ心の中では自分に真剣に向き合っているともいえます。

ただ、「変わりたい」中身が心に関連するときには、そう簡単にはいきません。「変わりたい」と

思う一方で「変わりたいくない」気持ちが潜んでいたり、「変わる」ことで自分が自分でなくなると恐れていたりするからです。また、変えることで問題すべてが解決するかに考えていると、かえって「変わる」ことを邪魔することもあります。性格とか考え方、癖とか、心に関係することがらの場合、変えたいと思っても中身も自分の一部なので、服を脱ぎ替えるように変えるわけにはいかないのです。

変わりたいと思つていたり部分で実際は自分の特徴や個性だった、という場合が少なくありません。欠点だと考えることが問題で、自分の良さだと受け止めるほうが変わる近道かもしれません。変えたい自分もふくめて自分なんだと受け止めること。嫌な自分や自分を変えたい中身を悪者にならないこと。大学生の「変わりたい」気持ちに対応するには、特に大切な考え方だと思つていきます。

卒業生のご父母の皆様におかれましては、お子様たちのご卒業を心よりお喜び申し上げます。

新たな進路が決まった卒業生の皆様には、それぞれの道で更なる成長をしていただくことを心よりお祈り申し上げます。

昨年末の政権交代以降、「アベノミクス」、「脱デフレ」などと景気刺激策の言葉が新聞紙面を踊っています。

これに合わせて、就職環境も一層の改善を期待したいところです。

しかし、現在の学生の状況をみると、景気回復だけでは就職率の改善は望めないのではないかという危機感を多く持ちます。

リーマンショック以降、大学だけでなく国・自治体でも多くの就職支援策を打ち出しています。本学でも合同企業説明会の回数を増やしたり、試験対策講座・模擬面接講座などを開講したりしていますが、参加率が芳しくありません。また、参加した学生の多くが「働く覚悟」に欠けているのが現状です。何名かの学生と面談をして感じることは、第一に、社会に出ることに対する不安が挙げられます。これはある意味ではいつの時代でも共通のものなのかもしれません。

次に目立つのが「働くこと」を難しく考え過ぎている学生です。キャリア教育の中の、仕事をすることあたっては、職業選択(就職活動)の段階からしっかりとした目標を持つた行動が必要であるという指導から飛躍して、「自分はしっかりとしたいがないので職業選択(就職活動)ができない」とまで思い悩んでしまふ学生もいるようです。

さすがにこれは極端な例ではありますが、就職活動が長引き、当初自分が思い描いていた業界・企業からどんどん離れていく(ような気がする)なかで、「やりたいこと」がわからなくなつてしまった、就職活動を続けている意味がわからなくなつてしまつたという声は、本学でも多く耳にするところです。

就職した若者の三割が三年以内に退職するということが社会問題化し、しっかりとキャリア教育が必要だということが盛んに叫ばれ、様々な取り組みがなされてきました。が、ともするとそれが逆に学生に対して重荷となり、一歩踏み出す力を奪つてしまつているのかもしれない。

キャリアセンター だより 30

とはいえ、私たちキャリアセンター職員は評論家ではありませんので、目の前の学生一人ひとりと、しっかりと向き合いながら指導をしていこうと日々取り組んでおります。

三年生につきましては、今が就職活動本番となります。連日のようにスーツを着込み、説明会・選考会などに参加していると思います。

キャリアセンターにも毎日多くの学生が、履歴書・エントリーシートの添削にやっています。面接の練習なども随時行なっておりますので、積極的にキャリアセンターを利用していただくようご指導願います。

また、慣れない環境で非常に疲れていると思つたので、ご父母の皆様には、お子様の体調管理・健康管理をお願いいたします。就職活動に悩んでいるようでしたら、いつでもキャリアセンターに連れて来てください。

一年生・二年生に対しても、この春休みには様々なキャリア関連講座を開講してきました。

SPI対策として『数学特訓講座』、『公務員・民間就職スタート講座』、資格講座として『MOS(マイクロソフトオフィス)講座』などを行いました。参加した学生たちは皆、積極的に課題に取り組み、相応の成果を得ることができたようすが、年々参加者が少なくなつていくことが気になります。

キャリアセンターからのお知らせは、JNETのメールシステムを利用し、学生への周知を行っています。が、まだまだ登録が少ないようです。お子様に再度登録の確認をしてください。よろしくお願ひします。



塩田ゼミナール

私たちの塩田ゼミでは、韓国の言葉や文化について学びます。韓国語専攻ではない学生も多いので、三年生では映画やドラマを見ながらシナリオを読み、全員が韓国語への理解を深めることを狙います。夏には、ゼミで韓国へ行く機会があります。まだまだ韓国語ができなくても、学んだ言葉を覚えて使ってみたり、ハングルで書かれた地図を見ながら移動して、とてもいい経験になります。

四年生になると、今まで触れた韓国文化をもとに、それぞれが興味を持った課題を掲げての卒業研究へと取り組んでいきます。みんなの研究テーマは本当にいろいろ。好きな韓国アイドルがおすすめる韓国の本を日本語に訳したり、キムチを作ってみたり、日韓のプロ野球を比較してみたり、韓国と関わりがあれば何でもいいのです。ただ、「楽しくやること」が大切だと塩田先生は何度も言います。研究は苦しみながらも進むものではなく、興味に動かされて自然と進めら

を伸ばしていくことができます。ゼミナールが大所帯であるので、イベントも非常に盛り上がりがあります。コンパは年に数回行われ、ゼミ生が親睦を深める場となっています。また今年度は九月上旬に長野県でゼミ合宿が行われ、このビッグイベントを通して、学年を問わず一体感を持って思い出作りに全力で取り組みました。



中国文学科四年 福田 優子

飯田ゼミナール

私たちが所属する飯田ゼミナールは、四年生29名、三年生35名と学内最大級のゼミナールです。学習している分野は国際貿易論を中心に経済に関連するものであり、三年次は一人が二つのテーマについてゼミ内の発表を行います。一回目のゼミ内発表では提示されたテーマの中から興味のある事柄について調べ、毎週三〜四名の学生が発表をします。発表が終わると質疑応答があり、発表したテ

マについての知識をゼミナール全体で共有します。ゼミ生が多いことにより質疑応答が活発化して、質の高い研究を進めることができます。二回目の発表は個人で自由にテーマを設定するため、一人一人の特徴が表れるものが多く、発表する学生はもちろん、発表を聞く学生も楽しみながら発表のスキルを高め合っています。発表で重視すべき点や、発表の質が向上する工夫などを飯田先生から指南して頂けるため、発表を通して経済に関する知識を深めながら、スキル

を伸ばしていくことができます。ゼミナールが非常に盛り上がりがあります。コンパは年に数回行われ、ゼミ生が親睦を深める場となっています。また今年度は九月上旬に長野県でゼミ合宿が行われ、このビッグイベントを通して、学年を問わず一体感を持って思い出作りに全力で取り組みました。



国際政治経済学科三年 岡崎 航

ゼミ探訪

れていくものなのだと私は考えました。先生は韓国に関すること以外でも心強いアドバイスをしてくださいました。まるでみんなのお母さん。ゼミのみんなは本当にのびのびとしています。韓国と日本は隣同士、互いに絶対に無視することのできない存在です。特に私たち若い世代は、一層関心を持たなければなりません。互いを知るためには、まず相手の言葉を知ることからだと考えます。それこそ「好き」「嫌い」を越えた視点から両国を見ることができるよう

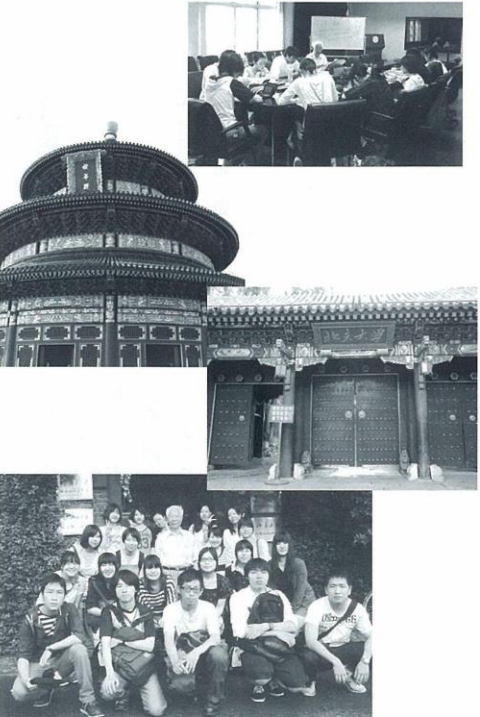
なるのではないのでしょうか。

二松学舎大学 北京 大学 (二〇一三年夏期) 中国語・歴史文化研修

参加学生募集のご案内

今年で十七回目を数える本研修は、北京大学における語学研修を通して中国語運用能力と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした二松学舎独自の特別プログラムです。語学のブラッシュアップを図るとともに、語学以外に中国歴史文化講座、名所旧跡の参観や京劇、雑技鑑賞など中国文化に触れることができます。これまで学んできた中国語の力を試し、文章や映像では伝わらない、中国の首都・北京を、学生自らの目で確かめ、体感することで、中国理解を深められます。添乗員付きで、本学の専任教員が全日程を引率するため、安心してじっくりと学びに集中できるこの機会を、ぜひご活用ください。

期 間：二〇一三年八月八日(木)〜八月二十八日(水) 二十泊二十一日
 研修大学：北京大学 (受入機関：北京大学歴史学系)
 研修費用：三十万円前後
 募集人員：三十名 (最少催行人員二十名)
 問合せ先：二松学舎大学学生支援課 〇三三二六二一七四〇六



平成25年度二松学舎大学日程表

年	月	日	月	日	日 程
平成25年	3	29	~	4 6	ガイダンス
	4	3			入学式
	4	5			新入生歓迎式典
	4	8	~	7 29	春セメスター授業期間
	4	20			前期授業料納入期限
	4	29			(天皇誕生日)：授業実施
	5	18			定期学生大会
	5	25			父母会定期総会
	6	22	~	6 23	文化祭
	6	29	~	6 30	体育祭
	7	17	~	7 18	補講期間
	7	30	~	8 5	試験期間
平成26年	8	6	~	9 18	夏期休業期間
	9	9	~	9 12	ゼミ合宿期間
	9	19	~	1 27	秋セメスター授業期間
	9	23			(秋分の日)：授業実施
	9	30			春セメスター卒業式
	10	10			創立記念日 136周年
	10	14			(体育の日)：授業実施
平成25年	10	20			後期授業料納入期限
	11	1	~	11 3	学園祭 (九段)
	11	4			(文化の日)：授業実施
	11	23			(勤労感謝の日)：授業実施
	12	25	~	1 7	冬期休業期間
	1	15	~	1 16	補講期間
	1	28	~	2 3	試験期間
	2	7	~	2 8	卒業研究面接試験 (文学部)
	2	10	、	2 12	修士論文面接試験
	3	初旬			卒業・修了者発表
平成26年	3	中旬			ゼミ登録許可者発表 (文学部) 進級者発表 (国際政経)
	3	19			学部・大学院 学位記授与式 (予定)
	3	24	~	3 27	ゼミ合宿期間

お知らせ

平成二十五年度 父母会定期総会開催について

左記の日程により、平成二十五年度二松学会大学父母会定期総会を開催いたします。

当日は講演会を予定しております。

日時・平成二十五年度五月二十五日(土)
場所・九段一号館

内容・平成二十四年度事業報告並び

に決算
・平成二十五年度事業計画並び
に予算

新一年次生(新四年次生の会員の皆様)には、平成二十五年度定期総会のご案内と出欠票(委任状)をこの父母会報第八十号に同封しておりますので、ご確認ください。

また、準備の都合上、ご出欠を同封の出欠票(委任状)で五月十七日(金)までにお知らせください。

定期総会資料につきましては、五月中旬に郵送にてお届けします。

平成25年度 地区別父母懇談会について

父母会事業計画の一環として、毎年地区別父母懇談会を開催しています。

平成二十五年度の開催地は、北海道・宮城県・茨城県・東京都(九段校舎)・富山県・兵庫県・鳥取県・香川県・沖縄県の会場を予定しています(日程は左表をご確認下さい)。

この地区別父母懇談会は、大学の現状、履修の状況、学生生活の状況、就職活動の支援等について

の説明があります。

全体説明終了後、個別相談を行います。大学への質問及びご意見・ご要望などを大学関係者に直接話しができる機会です。この機会をぜひご利用ください。

フリー参加形式としておりますが、会員の皆様に変更して事務局より開催案内をお送りし、出欠の確認をお取りします。

万障お繰り合わせの上、ご参加願います。

平成25年度 地区別父母懇談会日程表

開催日	開催地区
6月23日(日)	北海道(札幌市)
6月23日(日)	沖縄県(那覇市)
6月30日(日)	宮城県(仙台市)
6月30日(日)	鳥取県(米子市)
7月6日(土)	東京都(本学九段校舎)
7月20日(土)	茨城県(水戸市)
7月21日(日)	富山県(富山市)
7月27日(土)	香川県(高松市)
7月28日(日)	兵庫県(神戸市)

編集後記

卒業生のご父母の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

本号では、港区のメルパルクホールで開催された厳粛な卒業式と帝國ホテルでの華やかな卒業パーティーの様子を掲載いたしました。それぞれの雰囲気を感じただければ幸いです。

今年度は、大学創立百三十五周年にあたり、記念式典・記念公演会が行われ、大きな節目の年となりました。また、大学より「MEMORIAM」なる長期ビジョンが発表されました。歴史ある本学が新たな取り組みを通じ、さらなる発表を大いに期待されるものでした。父母会では大学と相談の上、教室施設の改善として、大教室へ補助モニターを寄附することになりました。有意義に使われることを願っております。

本年一年間、皆様のご支援・ご協力をいただき活動できましたことを心より感謝申し上げます。今後、大学としっかり連携し、厳しい社会に踏み出す前の学生生活が充実したものとなるよう、様々な支援を続けていくために活動してまいります。学生を迎え、学生を送ってくれる千鳥ヶ淵の桜が、今年も美しく咲いています。